

おすもっ！

明日も

漫画 - たふるでっく



こうたーっ
暗くなる前に
行っておいで

ええーっ
タイムチャドンの
再放送見たいのにー

そんなわけで
すっかり過疎化して
人手がいなくなった今でも

この村で唯一
僕の家だけはこの小さな
神社の手入れを続けている

といつても
手入れをしているのは
実質ぼく一人なので

僕にとっては
迷惑極まりない
話だった・・・
・・・この日までは

お供えこれで
いいの？

じゃあ
いってきます。

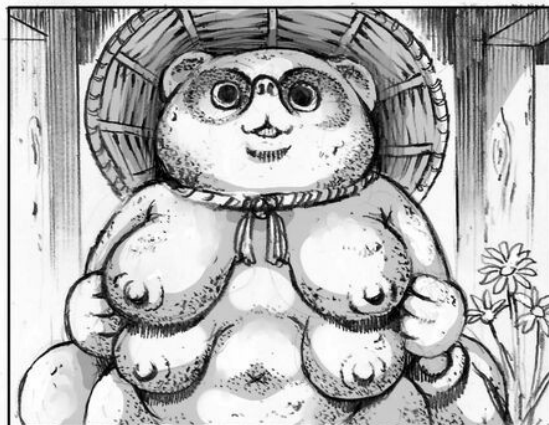
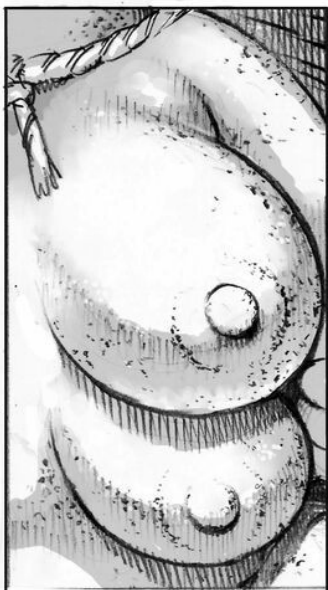
ありがたねー

むかしむかし
僕の先祖があるタヌキを
助け、恩を感じたタヌキが

その後村を襲った災いから
僕の先祖達を救ったという
言い伝えた。

なぜ僕がこんなことを
しているかといえば
この村に伝わる

古い言い伝えのせいだ







へえ〜
じゃあ今はキミが
このお世話を
してくれてるんだ？



うん…
私はね、
今はまだ
上手に化け
れないから、
ときどきここに来て
れんしゅうしてるんだー



この本もお手本にピッタリで
お助かりだよー！
…いやこの本は
参考にしない
ほうが…



あつ、そうだ！
何か困ってる事
ない？
もしお世話してる人が
困ったら助けてあげなさいって
お父さんたちに言われてるんだ！
えっ？！…
いや…



だっ大丈夫…
と、特にないよ…
ええ〜？
エンリョしなくていいよ
なんでもいからさ〜
んやッ…
んやッ…



んやッ…
んやッ…



あ！
わかった！
んやッ…









迷惑なだけの
日常に戻った...



僕はまた



オウリ。



彼女はすっかり
「おすもう」が気に入ってしまい



...その日の後も
何度と無く僕らは会った



...そして秋が来て

彼女は姿を消した。



僕も短い夏の間、
ただひたすら
彼女との「おすもう」を
堪能した。

